

1-C

コウヤマキの巨木 スギ科コウヤマキ属 Sciadopitys verticillata

日本特産樹である。二個の葉が合着した線形の葉が輪生する姿は、一度見たら記憶に残る樹木である。好まれて庭木として植えられる。巨木の多くは神社仏閣の境内にある。

■コウヤマキの巨木評価基準

- A 幹周おおむね 6m 以上のコウヤマキの巨木。
- B 幹周おおむね 4~6m のコウヤマキの巨木
- C B 評価以下のコウヤマキの巨木。

■全国の主なコウヤマキの巨木

2015年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 都道府県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
A	油日神社のコウヤマキ 写真 K-001	M6.93m(1.3m 2012)	35m	滋賀県甲賀市甲賀町油日	県
A	泉龍寺のコウヤマキ 写真 K-002	6.4m	29m	群馬県吾妻郡高山村尻高字熊野	県
B	大平のコウヤマキ(天然) 写真 K-003	M5.9m(1.3m 2013)	17m	静岡県清水市清水区大平	県
B	甘泉寺のコウヤマキ 写真 K-004	M5.53m(1.3m 2012)	20m	愛知県新城市作手鴨ヶ谷	国
B	東明神のコウヤマキ 写真 K-005	6.1m	22m	愛媛県上浮穴郡久万高原町東明神	県
B	西明寺のコウヤマキ 写真 K-006	5.4m	30m	栃木県益子町益子	県
B	那須町のコウヤマキ 写真 K-007	5.4m	24m	栃木県那須郡那須町芦野	県
B	石雲寺のコウヤマキ 写真 K-008	5.3m	m	宮城県大崎市松山千石	
B	長谷のコウヤマキ 写真 K-009	M5.07m(1.3m 2013)	29m	新潟県佐渡市長谷	県
B	祇劫寺のコウヤマキ 写真 K-010	5.0m	29m	宮城県大崎市田尻大貫字宿上屋敷	国
B	玉桂寺のコウヤマキ 写真 K-011	M4.96m(1.3m 2012)	31m	滋賀県甲賀市信楽町勅旨	県
B	鳥追観音のコウヤマキ 写真 K-012	M4.86m(1.3m 2012)	30m	福島県耶麻郡西会津町野沢字妙法寺	県
B	大国寺のコウヤマキ 写真 K-013	4.75m	30m	岐阜県飛騨市神岡町西 94	県
B	下黒沢のコウヤマキ 写真 K-014	4.77m	18m	山梨県北杜市高根町下黒沢	県
B	栃原のコウヤマキ 写真 K-015	4.7m	20m	鳥根県益田市四見町石谷栃原	市
B	笠形寺のコウヤマキ 写真 K-016	4.57m	18m	兵庫県神崎郡市川町	県
B	花園のコウヤマキ 写真 K-017	4.5m	30m	茨城県北茨城市華川町花園 花園神社	県
B	真乗院のコウヤマキ 写真 K-018	4.5m	18m	埼玉県川口市石神 1253	
B	清水寺のコウヤマキ 写真 K-019	4.2m	35m	新潟県佐渡市新穂町大野	

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
B	澳津説神社のコウヤマキ 写真 K-020	4.1m	30m	茨城県日立市日高町	
B	神宮寺のコウヤマキ 写真 K-021	4.1m	27m	京都府与謝郡与謝野町字石川	府
B	長春寺のコウヤマキ 写真 K-022	4.06m	27m	長野県駒ヶ根市下平 1450	市
C	屏風山のコウヤマキ(天然) 写真 K-023	M3.97m(1.3m 2009)	15m	福井県大野市屏風山	
C	朝日のコウヤマキ 写真 K-024	M3.98m(1.3m 2014)	20m	福井県大野市朝日町	
C	峰定寺のコウヤマキ 写真 K-025	M3.82m(1.3m 2014)	16m	京都府京都市左京区花背原地町	
C	平岡のコウヤマキ 写真 K-026	3.6m	18m	岡山県加賀郡吉備中央町平岡	町





◀写真 K-001

あぶらひ

油日神社のコウヤマキ

閉された神社の敷地内にあり、一般には外観しか見る事ができない。依頼して調査させて頂き、日本一であることが判明した。昭和46年頃、主幹に細い穴を開け、年輪調査をした。その結果、720年まで確認されたが、中心部は密度が濃く、年輪を確認できなかったという。

地上8mで大きく2分岐する樹形で、分岐下にある細い幹が枯れている。枝の先端は垂れるが、今なお樹勢は旺盛だ。

▼写真 K-005

ひがしみようじん

東神明のコウヤマキ

山之内家の墓所に立ち、3mで主幹から側幹2本が分岐する。

(写真・Web画像)



◀写真 K-004

かんせんじ

甘泉寺のコウヤマキ

巨木DBでは、油日神社のコウヤマキと幹周が近いので、測定させて頂くと、意外に小さかった。台風の被害で大枝が折れたり、樹形は随分貧弱になったようだ。



写真 K-002

せんりゅうじ
泉龍寺のコウヤマキ

本堂の裏に立ち、3本の合体木。奇麗に融合して、分岐幹の様に見えるまでになった。

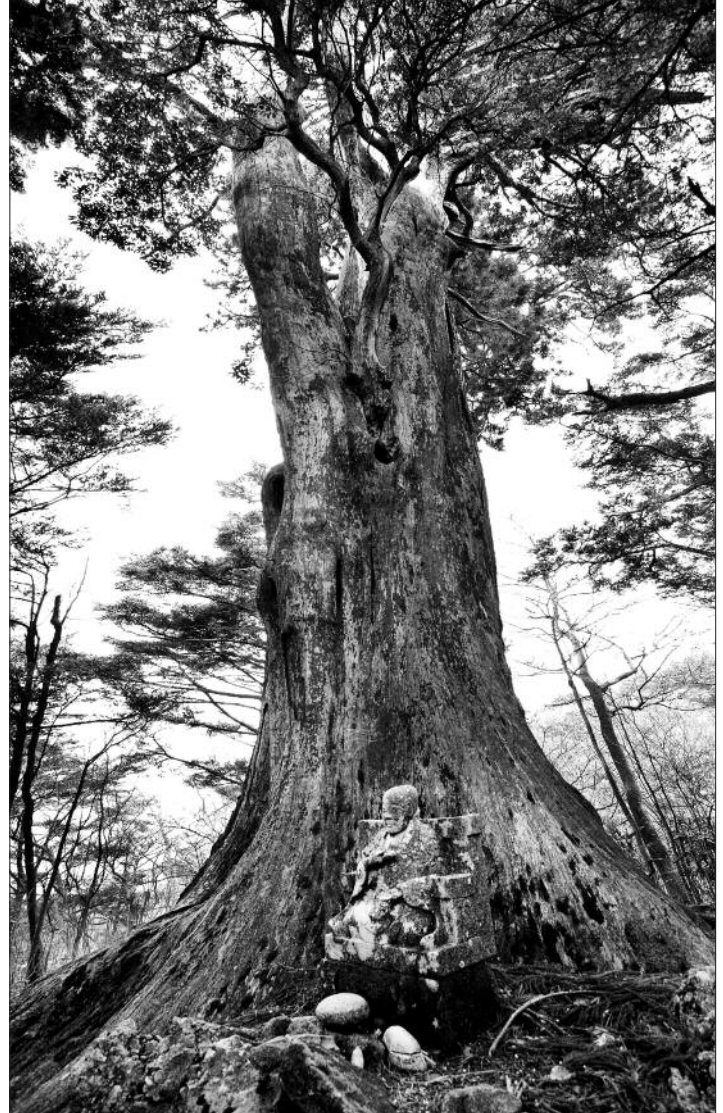


写真 K-003

おおひら
大平のコウヤマキ

天然のコウヤマキとしては日本一。大平集落の山中にある。5mで側幹が立上がる樹形で、三分の二が白骨化して、山側の部分が生きている。内部も空洞化が進んで、いつ倒木してもおかしくない状態。弘法大師伝説があり、樹下に置かれた石仏は大師の姿だろう。



写真 K-007▶

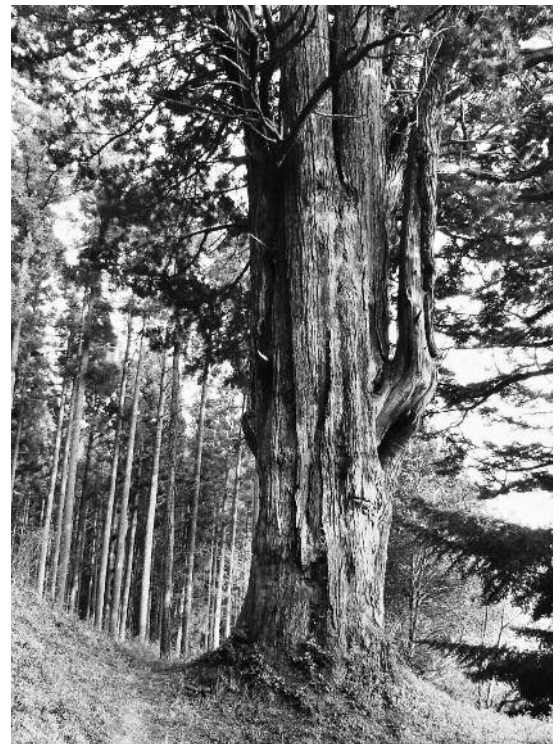
なすまち
那須町のコウヤマキ

桜ヶ城の築城記念に植えられた記念樹。樹齢500年以上で、樹齢の判断がつく貴重な一本だ。
(写真・Web画像)

写真 K-006

さいみょうじ
西明寺のコウヤマキ

二本の合体木である。コウヤマキは成長が遅い樹木なので、このような寄植えが多い巨木である。
(写真・Web画像)



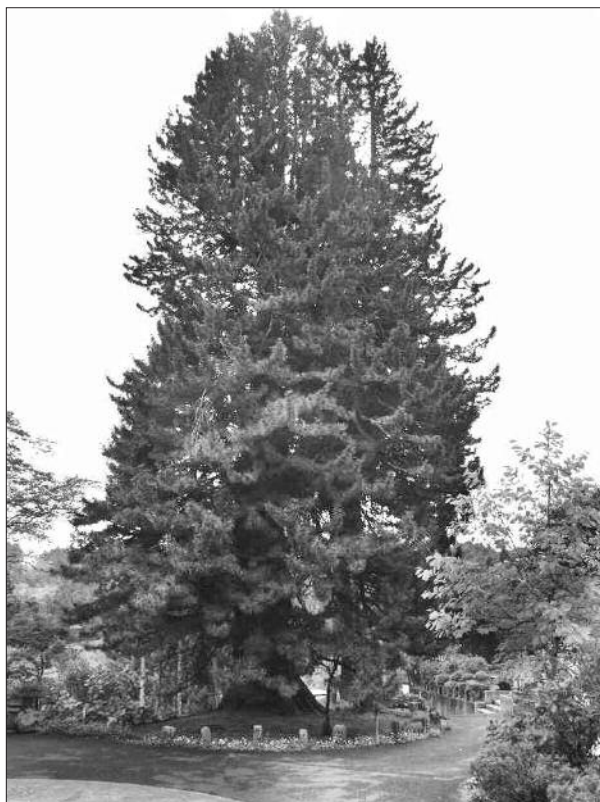


写真 K-008
せきうんじ
石雲寺のコウヤマキ
(写真・Web画像)



▲写真 K-009
はせ
長谷のコウヤマキ

佐渡の中程、長谷寺の石段参道の右手に立つ。池と石とツツジで形成された庭園の上部にシンボルツリーとして立つもので、素晴らしい樹形である。



写真 K-11
ぎょくせんじ
玉泉寺のコウヤマキ

本堂正面前、石段の左右にコウヤマキの林がある。その中で左側にある最大株。地上1.5mで大小2分岐し、5mで主幹は4分岐する。幹は波打ち、古木の風格十分だ。



▲写真 K-012

とりおいかんのん
鳥追観音のコウヤマキ

妙法寺のコウヤマキとも言われる。地上10mで2本立ちとなる樹形で、見事な単幹樹。枯枝が少しあるものの、樹勢は旺盛だ。



▲写真 K-010

ぎこうじ
祇劫寺のコウヤマキ

2本の合体木。見事に融合している。(写真・石田徹)



▲写真 K-015

とちはら
栃原のコウヤマキ

民家の裏手に立ち、2mで多数に分岐する。(写真・Web画像)

◀写真 K-014

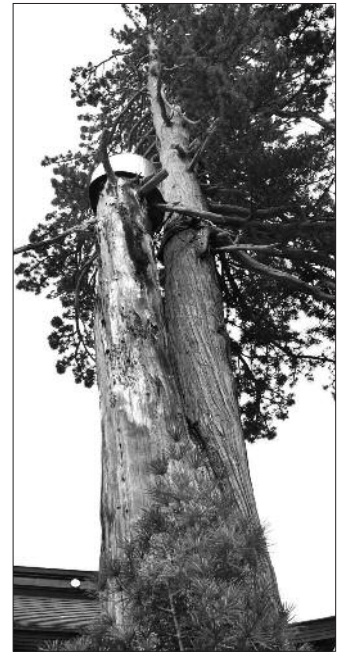
しもくろさわ
下黒沢のコウヤマキ

3本の合体木である。
(写真・Web画像)

写真 K-016▶

かさがたでら
笠形寺のコウヤマキ

2本の融合木で、成長点が同高であることが、遠目によく解る。
(写真・Web画像)



▲写真 K-013

だいくくじ
大国寺のコウヤマキ

2本の合体木である。これもみごとに融合している。
(写真・Web画像)



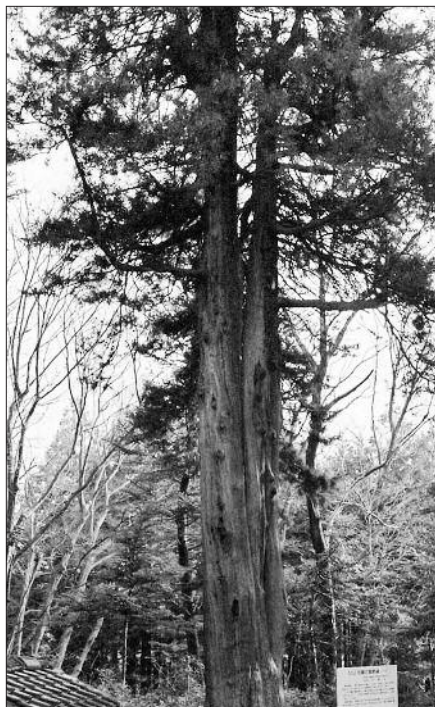


写真 K-017

はなぞの
花園のコウヤマキ

2本の合体木で、見事に融合している。
(写真・Web画像)



写真 K-018

しんじょういん
真乗院のコウヤマキ

境内に立つ見事な単幹樹である。
(写真・Web画像)



写真 K-019

せいすいじ
清水寺のコウヤマキ

すっきりした単幹樹である。
(写真・Web画像)



写真 K-020

おくつせ
澳津説神社のコウヤマキ

(写真・Web画像)



写真 K-021

じんぐうじ
神宮寺のコウヤマキ

見事な単幹樹である。
(写真・巨樹・巨木HP)



写真 K-022

ちょうしゅんじ
長春寺のコウヤマキ

長春寺再建の折り、記念樹として植えられた。
(写真・Web画像)

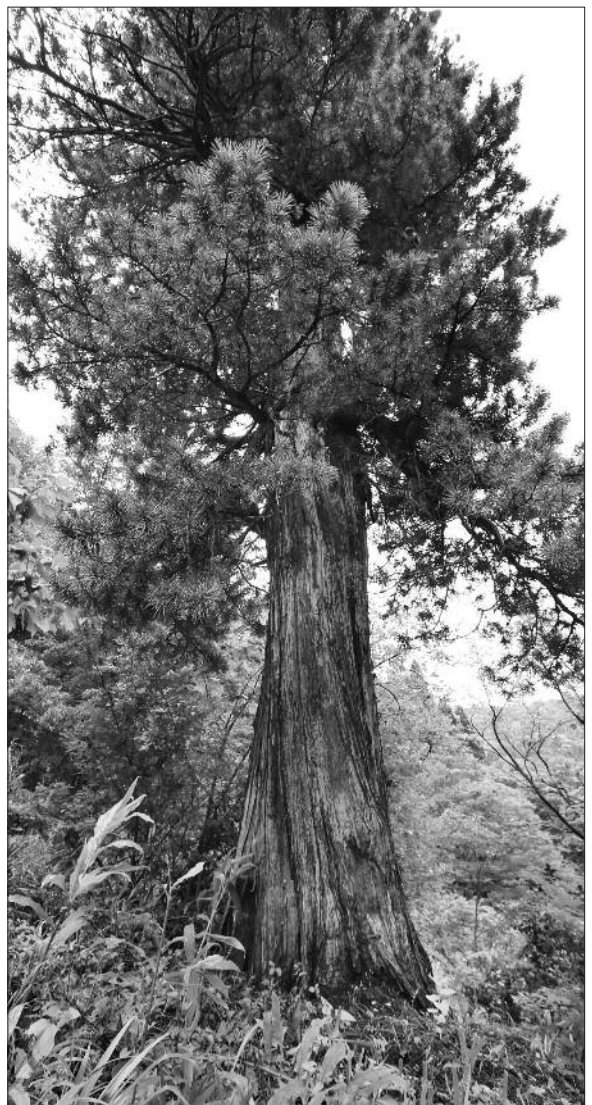


▲写真 K-023

びょうぶやま

屏風山のコウヤマキ

屏風山の標高 1,030m の中腹尾根に立つ。くねるように立上がる見事な樹形の単幹樹。屏風山の大ヒノキに向かう途中で発見。道はない。



▲写真 K-024

あさひ

朝日のコウヤマキ

スキー場の手前、ロッジの裏手に立つ。見事な単幹樹である。



◀写真 K-025

ふじようじ

峰定寺のコウヤマキ

仁王門前に立ち、5m で主幹がはげし、多数の分岐幹を出す。

写真 K-026▶

ひらおか

平岡のコウヤマキ

(写真・Web 画像)

